

令和 6 年度病虫害発生予察予報第 2 号(令和 6 年 5 月)

令和 6 年 5 月 8 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作 物 名	病 害 虫 名	予想発生量※
水稻	スクミリンゴガイ	<u>多(県下全域)</u>
カンキツ類	カメムシ類	<u>多(県下全域)</u>
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、平年並(中西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(西) <u>やや多(中央)</u> 、少(中西、西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西、西)</u>
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東、西)</u> 、少(中央) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西) <u>多(西)</u> 、平年並(東、中央) <u>多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央) <u>多(東)</u> 、少(中央、西) <u>多(西)</u> 、やや多(中央部)、並(東部)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u> <u>多(東)</u> 、平年並(中央、中西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(東、中央)</u> 、やや少(中西) <u>多(中央)</u> 、やや少(中西)、少(東) 平年並(県下全域)
促成トマト	うどんこ病 灰色かび病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台5月2日発表)

5月4日から6月3日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並、高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並、高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	30		40	30
		日照時間	40		30	30

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	20	40		40
2週目		10	40	50	
3～4週目		20	40		40

＜予報の対象期間＞

1か月：5月4日(土)～6月3日(月)

1週目：5月4日(土)～5月10日(金)

2週目：5月11日(土)～5月17日(金)

3～4週目：5月18日(土)～5月31日(金)

II 病虫害発生予想

1 水稲の病虫害

1) スクミリンゴガイ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 今年の暖冬の影響で越冬量が多いと考えられる。また、卵塊が平年より早く見られていることや、5月の気温が平年よりも高いと予想されており、今後の成貝の活動が活発になると考えられることから、発生は多くなると予想される。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
- (3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

2 カンキツ類の病害虫

1) カメムシ類

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 県内4地点(安芸市、香美市、須崎市、四万十市)で実施しているフェロモントラップ調査では全地点で4月上旬より誘殺が確認されている。4月の誘殺数は、中西部で40頭(平成88.6頭)と平成より少なかったものの、東部で61頭(同5.5頭)、中央部で45頭(同8.1頭)、西部で616頭(同21.9頭)と平成よりかなり多くなっている。
- (2) 暖冬により越冬量が多いものと考えられる。また、5月は平成同様晴れる日が多く、平成よりも気温が高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件になると考えられる。

対 策

- (1) 花、幼果を吸汁されると結実不良、落果の被害がでるため、ほ場での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 促成キュウリの病害虫

1) ベと病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(西部)、平成並(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平成よりも多く、西部でやや多く、中西部で平成並であった。発病程度は、中央部と西部で平成よりも高く、中西部では平成並であった。
- (2) 5月は平成と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平成よりもやや多く、中西部で平成並、西部では少なかった。発病程度は中央部で高く、中西部で平成並、西部ではやや低かった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平成よりも高く、平成と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 褐斑病

予 想 発生量：やや多(中央部)、少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られた。発生面積は中央部で平年よりもやや多く、中西部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、中西部では低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病した茎葉や果実は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。
- (3) 発生の多いほ場では、次作に向け耐病性品種の導入を検討する。

4)黄化えそ病

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部と西部で平年よりも多く、中央部でやや多かった。発病程度は中西部で平年よりもやや高く、西部で平年並、中央部では低かった。
- (2) 既発ほ場を中心に発病株が増加している。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は、県下全域で確認されている。
- (3) 気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。罹病株は早期に除去し、土中に埋めるなどの処分を行うとともに、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底し、保毒虫の分散を防ぐ。

5)退緑黄化病

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。県下全域で発生面積は平年よりも多かった。発病程度は中央部、中西部で平年より高く、西部では平年並であった。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されていることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。栽培の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

6)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量:多(西部)、やや多(中西部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部では低かった。

(2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、本虫は黄化えそ病を媒介することから、栽培の終了時には保毒虫が周囲へ分散しないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

7) タバココナジラミ

予 想 発生量:多(中央部)、やや多(中西部、西部)

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多く、中西部、西部では平年並であった。発生程度は中央部で平年よりも高く、中西部、西部では平年並であった。

(2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に行う。また、本虫は退緑黄化病を媒介することから、栽培の終了時には保毒虫が周囲へ分散しないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

4 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量:多(東部、西部)、少(中央部)

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、西部で平年よりも多く、中央部では少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、東部、中央部では平年並であった。西部では水疱症の発生も確認された。

(2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) うどんこ病

予 想 発生量:多(東部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

(1) 4月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は東部で平年よりも多く、中央部では平年並であった。発病程度は東部で平年よりも高く、中央部ではやや低かった。

(2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年よりも高く、平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量:多(西部)、平年並(東部、中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、東部と中央部で平年並であった。発病程度は西部で平年よりも高く、東部と中央部では低かった。西部では果実への被害(水疱症)の発生も確認された。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病した茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)すすかび病

予 想 発生量:多(西部)、平年並(東部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、東部では平年並、中央部ではやや少なかった。発病程度は東部で平年よりもやや高く、中央部では平年並、西部でやや低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量:多(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県東部で発生が見られた。発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりも高かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多くのほ場では天敵の働きにより発生が抑制されているが、多発傾向が見られる場合には選択性殺虫剤の利用を検討する。

6)タバコナジラミ

予 想 発生量:多(西部)、やや多(中央部)、並(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。発生程度は中央部で平年並、西部でやや低く、東部で低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメなどの天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると予想される。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に行う。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量:多(東部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部、中西部で平年並であった。発病程度は東部、中西部で平年よりも高く、中央部で低かった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量:多(東部)、平年並(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部、中西部で平年並であった。発病程度は中央部で平年より高く、東部、中西部で低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県下全域で平年よりも多かった。発病程度は東部、中央部で平年よりも高く、中西部では平年並であった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量:多(東部、中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、いずれも発生面積は平年よりも

多く、発生程度は平年よりも高かった。

- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。
- (2) 卵塊やふ化後の幼虫集団を見つけたら、直ちに処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(中西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部でやや少なかった。発生程度は中央部で平年よりもやや高く、中西部でやや低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でスワルスキーカブリダニ等の天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県下全域で平年並であった。発生程度は中西部で平年並、中央部でやや低、東部で低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになると考えられるが、スワルスキーカブリダニなどの天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると予想される。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に行う。

6 促成トマトの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりも高かった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年よりも高く、平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 灰色かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 抛

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。果実では腐敗症状やゴーストスポットが見られたほか、茎葉から侵入し枯死する事例も確認されている。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 病原菌の侵入源となる花卉や枯葉はこまめに除去する。本病は傷口から感染しやすいので、曇雨天時の摘葉は避ける。

3)葉かび病

予 想 発生量:多(中央部)

根 抛

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりも高かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)すすかび病

予 想 発生量:多(中央部)

根 抛

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度はやや低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5)黄化葉巻病

予 想 発生量:やや多(中央部)

根 抛

- (1) 4月の調査では、発生面積、発病度ともに平年並であった。
- (2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖に好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株は可能な限りほ場外に持ち出し、土中に埋めるなどして処分する。

6)タバココナジラミ

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は高かった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に行う。
- (2) 本虫は黄化葉巻病、黄化病を媒介することから、栽培終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)